

理工学部履修の手引き

【教育の特色】

1. 1学科複数専攻制

理工学部のもとに複数学科を置く縦割りの形態ではなく、理工学部のもとに理工学科を置き、そのもとに「理学」系分野の数理科学専攻、情報科学専攻、「工学」系分野の機械工学専攻、電気電子工学専攻、建築学専攻の5専攻を設ける体制とし、他分野の教員や学生との活発な交流や、他分野の学びを正規課程において実践し、社会が求める「理学」「工学」分野を幅広く見つめる視野をもった人材の育成にあたる。

2. 理工学融合学修の展開

「理学」「工学」分野を幅広く見つめる視野をもった人材の育成に向けて、教育課程においては、1、2年次において、基礎教養、理工学の基礎の学修をしっかりと積み、3年次において、所属専攻の専門の学びだけでなく、隣接する他専攻の授業科目を履修することによって幅広い視野と知識、技術を養い、4年次において、幅広い視野で卒業研究に取り組む教育課程を編成する。また、それに加えて全専攻学生必修科目である「現代理工学序論」「理工学基礎セミナーⅠ・Ⅱ」「理工学実践演習Ⅰ・Ⅱ」の理工学融合科目を学修することで、理工学の幅広い視野と知識、技術を融合させていく手法を身につける。

3. 習熟度別教育による学修の支援

理工学部における学修の基礎となる英語、数学、物理において、その基礎科目を習熟度別授業にすることで各自の修得状況に応じた指導を行うことができる体制をとる。さらに「学習サポートセンター」において課外での個別の学習指導を行うことで、さらにきめの細かい支援をすることが可能になる。

4. 社会的・職業的自立に関する指導体制

上記の「理工学基礎セミナーⅠ・Ⅱ」「理工学実践演習Ⅰ・Ⅱ」といったPBL型教育（課題解決型実践的教育）を通して、理工学の学びを活用し、発展させるための、社会的な課題を見出す観点や課題解決の手法や、新たな価値の創出に必要な社会的・環境的ニーズの視点、資質、能力を身に付け、社会に貢献する意識、使命感の醸成を図る。

また、「キャリアデザインⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」では、理工人材としての進路決定に必要なとなるキャリア基礎力を身に付けるとともに、理工系企業の有識者による「実学講座」により、理工系業界をより深く知り、理工系人材としての将来像を描く意識付けをすることによって、卒業後の進路を明確化し、職業に就くことに対する意義の醸成を図り、卒業後、技術者、研究者、また、さまざまな領域で活躍する人材を養成する。

【卒業要件】

- ・卒業に必要な単位数（全専攻共通） 128 単位以上

< 共通基礎科目 >

必修科目 15 単位

選択科目 「人間と文化」「人間と社会」「人間と自然」から、それぞれ 2 単位以上
「外国語科目」または「保健体育科目」から 2 単位以上

合計 8 単位以上

< 専門教育科目 >

必修科目 24 単位

選択科目 各専攻に設定された基準を満たし、合計 81 単位以上

※各専攻の基準については、教育課程表の記載事項を確認すること。

ただし、履修科目の登録の上限は、年 45 単位とする。

- ・「卒業見込み」を認定するための条件

以下のいずれかの条件を満たしていない場合は「卒業見込み証明書」を発行できない。

- ・3 年次終了時点において、83 単位以上の単位を修得していること。
- ・4 年次前期終了時点で前期配置のすべての必修科目の単位が修得済みであり、106 単位が修得済みであること。